令和7年度「公的統計調査等を活用した教育施策の改善の推進するための取組」（21世紀出生児縦断調査の活用に資する調査分析）調査分析の要点・概要

①「平成22年出生児縦断調査における調査項目の提案等」に関する背景・検討課題

- 平成22年出生児縦断調査に関して、高校1年生等を対象とする令和8年（第16回）調査から文部科学省を実施主体とする共管調査に変更。
- 平成13年出生児縦断調査との比較対照等を行うことを原則としつつ、子供や若者を取り巻く環境が変化する中、諸課題に対応した教育施策に資するよう、縦断調査の特性を踏まえた調査項目を設定していく必要がある。
- 特に、社会のあらゆる場面でICT の活用が日常のものとなり、子供たちにとって、スマートフォンやタブレット、パソコンなどのICT 端末は、いわば「マストアイテム」となり、さらに、生成AI が社会に急速に普及しつつあるなど、情報化の進展が子供たちの学びや育ちに与える影響や変化等を注視する必要がある。
- 調査対象者の負担軽減の観点、紙媒体を使用した調査におけるページ数の限界も考慮した上で、どのような項目を、どの年齢段階で設定することがよいかについて検討する。

②「教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析」の背景・検討課題

- 平成13年出生児縦断調査においては、第23回調査（回答者が4年制大学を卒業、進路が多様化する段階）までの調査データが蓄積されている。
- 文部科学省の施策の効果測定に資すると考えられる内容や文部科学行政によって改善等ができる要因に関する内容であることなどをふまえ、分析テーマについて検討・提案を行い、実際に集計・分析を行う。

①平成22年出生児縦断調査における調査項目の提案等

【背景・検討課題の補足】

- ✓平成22年出生児は、GIGAスクール構想が開始された令和元年当時に小学校中学年に当たる世代であり、学習・教育環境の違いが大きい。
- ✓生成AIが急速に普及、学習の場面でも活用が進む（ネガティブな影響についても指摘されてきている）
- ✓高校生等の世代を対象にする他の調査や、他のコホート間を比較する調査でもICT活用や生成AI等について関連項目の追加が行われている。

GIGAスクール構想開始（R元補正）

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
H13出生児（年齢）	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24									
H22出生児（年齢）										0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24

近年の高校生等の世代対象調査での項目追加事例、コホート間を比較する調査における項目追加事例

- 全国学力・学習状況調査（ICT機器の利活用に関する項目を段階的に充実）
- PISA（米国の2025年度調査でデジタル機器・サービスの使用頻度を尋ねる設問の対象として生成AIが追加）
- 学生生活実態調査（2023年調査より生成AI利用に関する項目が追加）
- 日本家計パネル調査（2021年調査より人工知能（AI）に関する調査項目が追加） など

①平成22年出生児縦断調査における調査項目の提案等

【項目設定に関する考え方】
- ✓ 平成13年出生児縦断調査の第17回調査（平成30年実施）ではICT機器の所有状況と使用目的、使用時間を尋ねる設問群（下記）が既に設定されている。
- ✓ 本調査では、これらの項目をベースにしつつ、調査対象者の負担軽減の観点、紙媒体を使用した調査におけるページ数の限界も考慮した上で項目設定を検討。

【悩みや不安について】
補問４－１　あなたが、悩みや不安について相談するのは誰ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. お母さん	6. 同居していない親せき	11. カウンセラー（10 以外）（電話相談を含みます）
2. お父さん	7. 友人	12. 医師
3. 兄弟姉妹	8. 先輩・後輩	13. インターネットの相談サイト
4. 祖父・祖母	9. 教師	14. その他
5. その他の家族	10. 学校カウンセラー（スクールカウンセラー）	15. 誰にも相談しない

【スマートフォン等について】
問５　あなたは次のような機器を使用していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。いずれも使用していない場合は、４のみに○をつけてください。

1. スマートフォン・携帯電話	3. パソコン
2. タブレット機器	4. いずれも使用していない

（問５で１～３を選択した場合）
補問５－１　スマートフォン、タブレットやパソコンを使って何をしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 学校の授業での学習	7. 学業や仕事以外に趣味でおこなう学習（語学など）	13. ゲーム
2. 学校外での学習（塾や自宅などでの学習）	8. 写真・動画・イラスト・音楽等の編集・制作活動	14. 音楽視聴
3. 資格取得のための学習	9. プログラミング	15. 動画視聴
4. 希望する進学先に関する情報収集	10. コミュニケーション（メール、メッセンジャー、ソーシャルメディアなど）	16. ショッピング・オークション
5. 希望する就職先に関する情報収集	11. 地図・ナビゲーション	17. その他の情報検索
6. 勤務先での仕事	12. ニュース	18. その他（　　）

補問５－２　１日にどのくらいスマートフォン、タブレットやパソコンを使用していますか。平日と休日別に、それぞれあてはまる番号１つに○をつけてください。

平日	休日
1. 使用しない	1. 使用しない
2. １時間未満	2. １時間未満
3. １時間～２時間未満	3. １時間～２時間未満
4. ２時間～３時間未満	4. ２時間～３時間未満
5. ３時間～４時間未満	5. ３時間～４時間未満
6. ４時間～５時間未満	6. ４時間～５時間未満
7. ５時間～６時間未満	7. ５時間～６時間未満
8. ６時間以上	8. ６時間以上

①平成22年出生児縦断調査における調査項目の提案等

【想定される分析テーマ】
- ✓ 既存の項目を活かしつつ、一部設問を追加・改訂することで、教育施策に関連する下記のようなテーマについて分析検討を行うことが可能になる。



①学習目的のICT機器・生成AIの利用度と授業の理解度・意欲・自信の関係

- 学習目的のICT機器・生成AIの活用状況を新たに調査　※後述のパターンA～Cでは、得られる情報量別にパターン化
- 授業の理解度・意欲・自信等に関する項目は既存のものを活用
  （授業の内容をよく理解できているか、学校や塾の成績に関する悩みがあるか、楽しいと思える授業がたくさんあるか、など）



②生成AIの利用とメンタルヘルスの関係

- 悩み相談の相手としての生成AIの利用の状況を新たに調査　※後述のパターンA～Cでは、いずれでも共通に盛り込む想定
- メンタルヘルスに関する項目は既存のものを活用
  （ここ最近のあなたの心の状態について教えてください）



③本人属性・家庭環境とICT機器・生成AIの利用度との関係

- 本人属性・家庭環境に関する項目は既存のものを活用
  （保護者の年収や職業、保護者の教育方針、きょうだいの有無・人数等）
- 学習目的を含む、目的ごとのICT機器・生成AIの活用状況を新たに調査

※後述のパターンA～Cでは、得られる情報量別にパターン化

①平成22年出生児縦断調査における調査項目の提案等

【具体的な項目設定に関する提案】
- ✓ 想定される分析内容をふまえて、既存項目からの変更の程度の別にパターンA～Cを検討・提案。
- ✓ あわせて、今後の調査のなかでの実施のタイミングに関する考え方を提示。

パターンA(変更程度:低)
- 平成13年出生児縦断調査の項目をできるだけ活かし、選択肢の項目の1つとして生成AIに関する項目を追加する
- 利用目的別のICT機器の利用時間(平日・休日別)を新規に設ける

※利用時間については、ICT機器の目的別利用状況は把握できるが、AIに特化した形での把握はできない

【悩みや不安について】
補問４－１　あなたが、悩みや不安について相談するのは誰ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. お母さん	6. 同居していない親せき	11. カウンセラー（10 以外）（電話相談を含みます）
2. お父さん	7. 友人	12. 医師
3. 兄弟姉妹	8. 先輩・後輩	13. インターネットの相談サイト
4. 祖父・祖母	9. 教師	*14. 生成 AI（※）（チャット機能等による相談）*
5. その他の家族	10. 学校カウンセラー（スクールカウンセラー）	15. その他
		16. 誰にも相談しない

※ここで「生成 AI」とは、「文章、画像、プログラム等を生成できる AI モデルにもとづく AI の総称」を指す（総務省・経済産業省(2024)「AI 事業者ガイドライン（第 1.1 版）」）

【スマートフォン等について】
問５　あなたは次のような機器を使用していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。いずれも使用していない場合は、*6*のみに○をつけてください。

1. スマートフォン・携帯電話	*4. 自宅用のタブレット機器*
2. 学校で配布・指定されたタブレット機器	*5. 自宅用のパソコン*
3. 学校で配布・指定されたパソコン	6. いずれも使用していない

（問５で*1～5*を選択した場合）
補問５－１　スマートフォン、タブレットやパソコンを使って何をしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 学校の授業での学習	7. 学業や仕事以外に趣味でおこなう学習（語学など）	15. ニュース
2. 学校外での学習（塾や自宅などでの学習）	8. 写真・動画・イラスト・音楽等の編集・制作活動	16. ゲーム
3. 資格取得のための学習	9. プログラミング	17. 音楽視聴
4. 希望する進学先に関する情報収集	*10. 生成 AI を活用した学習（調べごと、AI ドリルなど）*	18. 動画視聴
5. 希望する就職先に関する情報収集	*11. 生成 AI を活用した趣味・娯楽（イラスト・アート生成、物語・小説の生成など）*	19. ショッピング・オークション
6. 勤務先での仕事	*12. 生成 AI を活用した学習や趣味・娯楽以外の活動（AI への相談、仕事での活用等）*	20. その他の情報検索
	13. コミュニケーション（メール、メッセンジャー、ソーシャルメディアなど）	21. その他
	14. 地図・ナビゲーション	

補問５－２　*1 日にどのくらいの時間、スマートフォン、タブレットやパソコンを使用していますか。総時間数及び目的別時間数について、平日と休日別に、それぞれあてはまる番号１つに○をつけてください。*

① 1 日あたりの総時間数

平日	休日
1. 使用しない	1. 使用しない
2. １時間未満	2. １時間未満
3. １時間～２時間未満	3. １時間～２時間未満
4. ２時間～３時間未満	4. ２時間～３時間未満
5. ３時間～４時間未満	5. ３時間～４時間未満
6. ４時間～５時間未満	6. ４時間～５時間未満
7. ５時間～６時間未満	7. ５時間～６時間未満
8. ６時間以上	8. ６時間以上

② 総時間数のうち学習のため

③ 総時間数のうち趣味・娯楽のため

④ 総時間数のうち学習や趣味・娯楽以外のため

※②～④についても同様の選択肢で時間数を尋ねる

①平成22年出生児縦断調査における調査項目の提案等

パターンB(変更程度:中)
- パターンAの内容に加えて(一部変更をして)、生成AIの活用の目的別の程度を把握する項目を新規に追加する
- 加えて、生成AIのリスクを等を学校等の場で学んだ経験があるかに関する項目を追加する

※生成AIについて大まかな利用目的別の利用の有無だけでなく、その程度を把握することが可能(生成AIの利用により特化した形での情報把握が可能)

【悩みや不安について】
補問４－１　（パターンＡと同じ）

【スマートフォン等について】
問５　（パターンＡと同じ）

補問５－１　スマートフォン、タブレットやパソコンを使って何をしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 学校の授業での学習	7. 学業や仕事以外に趣味でおこなう学習（語学など）	13. ゲーム
2. 学校外での学習（塾や自宅などでの学習）	8. 写真・動画・イラスト・音楽等の編集・制作活動	14. 音楽視聴
3. 資格取得のための学習	9. プログラミング	15. 動画視聴
4. 希望する進学先に関する情報収集	10. コミュニケーション（メール、メッセンジャー、ソーシャルメディアなど）	16. ショッピング・オークション
5. 希望する就職先に関する情報収集	11. 地図・ナビゲーション	17. その他の情報検索
6. 勤務先での仕事	12. ニュース	18. その他

補問５－２　（パターンＡと同じ）

補問５－３　学校や勤務先、日常生活において生成 AI を使用しますか。目的別にそれぞれあてはまる番号１つに○をつけてください。

	よく使う	たまに使う	使用しない
① 学習のため（調べごと、AI ドリルなど）	*1*	*2*	*3*
② 趣味・娯楽のため（イラスト・アート生成、物語・小説の生成など）	*1*	*2*	*3*
③ 学習や趣味・娯楽以外のため（AI への相談、仕事での活用等）	*1*	*2*	*3*

補問５－４　生成 AI の仕組みや特性、リスクについて学んだことはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. *学校や勤務先で生成 AI の仕組みや特性、リスクについて学んだことがある*
2. *家庭で生成 AI の仕組みや特性、リスクについて学んだことがある*
3. *学校や勤務先、家庭以外で生成 AI の仕組みや特性、リスクについて学んだことがある*
4. *生成 AI の仕組みや特性、リスクについて学んだことがない*

①平成22年出生児縦断調査における調査項目の提案等

パターンC（変更程度：高）
- 既存の調査項目の枠組みとは別に、生成AIの利用経験の有無、利用の目的、目的別利用頻度等に関する状況把握を行う項目群を新規に追加する

※生成AIの利用目的や利用頻度などについてさらに詳細に状況を把握することが可能（独立した項目群として設定することで、今後継続的に調査をすることが検討しやすくなるという利点もある）

【悩みや不安について】
補問４－１　（パターンＡと同じ）

【スマートフォン等について】
問５、補問５－１、補問５－２　（パターンＢと同じ）

【生成 AI について】
問６　あなたは生成 AI を使ったことがありますか。

1. *生成 AI を使ったことがある*
2. *生成 AI について聞いたことがあるが、使ったことはない*
3. *生成 AI について聞いたことがない*

（問６で１を選択した場合）
補問６－１　生成 AI を使って何をしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 学習支援	8. プログラミング支援
2. 文章の生成・編集・翻訳	9. データ分析
3. 資料やプレゼンテーション作成	10. 雑談
4. 画像や動画の生成	11. 生活に関する相談（服装、献立など）
5. 音声や音楽の生成	12. 専門的な相談（心身の健康、進路など）
6. アイデア出し	13. その他
7. 情報収集・検索	

補問６－２　一週間のうち生成 AI をどのくらい使用していますか。目的ごとに当てはまる番号１つに○をつけてください。

	利用しない	週に１日未満	週に１日から３日	週に４日から６日	毎日
① 学習のため（調べごと、AI ドリルなど）	1	2	3	4	5
② 趣味・娯楽のため（イラスト・アート生成、物語・小説の生成など）	1	2	3	4	5
③ 学習や趣味・娯楽以外のため（AI への相談、仕事での活用等）	1	2	3	4	5

補問６－３　（パターンＢ補問５－４と同じ）

①平成22年出生児縦断調査における調査項目の提案等

【調査・項目設定のタイミング】
- 生成AIについては今後さらに普及が進み、技術の進歩に伴って利用場面や用途が大きく拡大する可能性が高い。
- 加えて、今回の対象者はこれから進学や就職といった重要なライフステージの変化を迎える時期にあり、これに応じてICT端末や生成AIの使い方も大きく変化していくことが十分に想定される。
- 第17回調査で項目設定を行った上で、例えば、対象者の多くにとって高校卒業の翌年にあたる第19回、4年生大学卒業の翌年にあたる第23回で調査するということが一つの案として考えられる。

GIGAスクール構想開始（R元補正）

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
H13出生児（年齢）	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24									
H22出生児（年齢）										0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24

第17回調査で項目設定を行った上で、多くの回答者のライフステージ（進学、就職等）が変わるタイミングで継続的に尋ねるということが想定される

②教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析

【分析テーマの検討・設定】
✓検討の結果、今後の教育政策の立案に資する分析テーマとして、次のA～Eについて集計・分析。
✓近年の政策動向や、大学院進学・就職など第23回調査で初めて情報が得られた内容を扱う形で検討。
✓各テーマに関して段階的に検討を深めていくような形となっており、例えば、テーマAで扱った内容を一部テーマDでも分析に使用。同様に、テーマBで扱った内容をテーマCとテーマDで、テーマCで扱った内容をテーマEで扱うというような構成となっている。

テーマA:
高等学校等や高等教育段階における教育経験に関する分析（学校満足度に関する分析）

- これまで、高等学校段階の学校満足度が特に低い傾向にあることが指摘されてきた
- 高等教育段階も含めて、各教育段階における学習が充実したものであるかを把握することは、今後の教育行政・教育施策を検討する上で重要である

テーマB:
高等学校におけるキャリア教育と進路の満足度、ウェルビーイングの関係に関する分析

- キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる」ことを目的とするものであるが、「主体的に社会の形成に参画する態度を育成していく」ことに寄与するものとしても位置付けられている
- キャリア教育について長期的な時系列の中で教育効果を検討・分析することの意義は大きい

テーマC:
「学校から社会・職業への移行」の状況に関する分析

- これまで、「学校から社会・職業への移行」が円滑に行われていないという課題・困難があることがたびたび指摘されてきた
- 縦断調査の実施目的と照らし合わせても、「学校から社会・職業への移行」の過程において、近年課題・困難があると考えられるのか否かという状況把握は重要である

テーマD:
大学院進学者の特性に関する分析

- 「博士人材活躍プラン」により、大学院（博士課程）への進学者を増やす方針が示されている
- どのようにすれば大学院（博士課程）進学者は増えるのか、あるいは、何がネックになっているのか等については、分析・検討等を蓄積していくことが重要である

テーマE:
高校生段階の奨学金等受給状況や効果等に関する分析

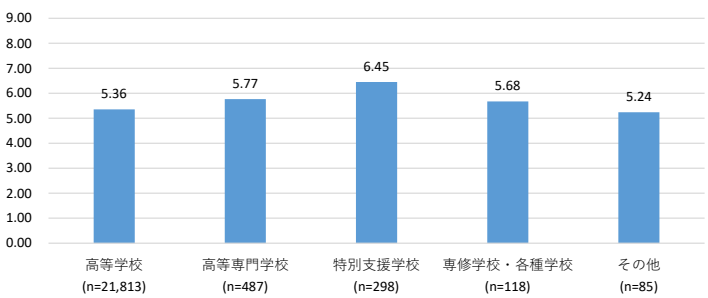
- 学びのセーフティネットを構築するという観点から、「意欲と能力のある若者が、家庭の経済事情にかかわらず、質の高い教育を受けられる」ようにするための取組が進められている
- 高校生段階の奨学金等の受給の有無と学業成績やその後の進路との関係について把握・分析することは重要である

②教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析

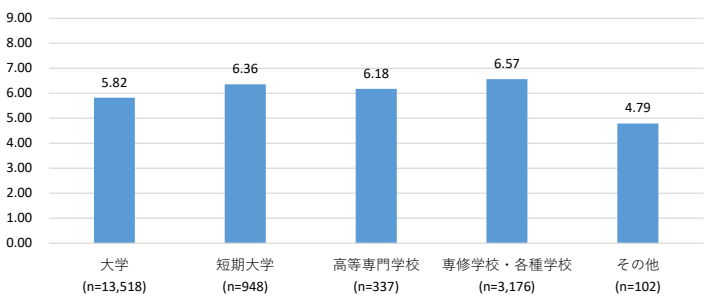
テーマA:
高等学校等や高等教育段階における教育経験に関する分析（学校満足度に関する分析）

- ✓ 高等学校等の段階はその後の大学等進学後の段階と比べても学校満足度の水準が低い
- ✓ 高等学校等の段階では、多くの者が通う「高等学校」よりも、満足度は「高等専門学校」等のほうが高い
- ✓ 高等教育機関に関しては、「大学」よりも「短期大学」や「高等専門学校」、「専修学校・各種学校」のほうが学校満足度が高い
- ✓ 満足度の水準の違いがなぜ見られるのか、得られた満足度の違いがその後の状況にどのような差異をもたらすかについて検討を深めていくことも重要（テーマDにも関連）

第17回調査時点の「学校満足度」の平均値



第20回調査時点の「学校満足度」の平均値



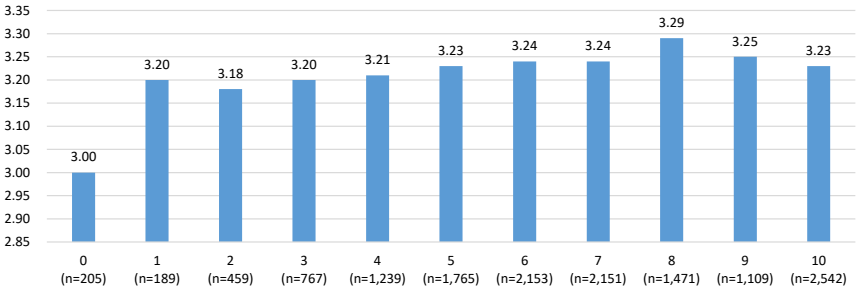
※「学校満足度」は、「ためになると思える授業がたくさんある」、「楽しいと思える授業がたくさんある」、「学校の勉強は将来役に立つと思う」の3項目を合成（4件法での回答を単純加算）して作成した指標。0～9の幅の値をとり、値が高いほうが満足度が高い。
※上記の結果は、いずれも一元配置分散分析による検定の結果が統計的に有意（$p<0.001$）。

②教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析

テーマB：
高等学校における
キャリア教育と進
路の満足度、ウェ
ルビーイングの関
係に関する分析

- ✓ 高等学校段階でキャリア教育に関する取組が実施されていた度合いが高い者ほど、その後の進路選択に関する満足度や「協調的ウェルビーイング」の指標の水準が高い傾向にある
- ✓ 高等学校段階でのキャリア教育が子供の能力形成やキャリア発達、進路にポジティブな影響を及ぼす可能性が示唆される結果が得られた（テーマC・テーマDにも関連）

キャリア教育の充実度別、第19回調査時点での「進路選択に対する満足度」の平均値



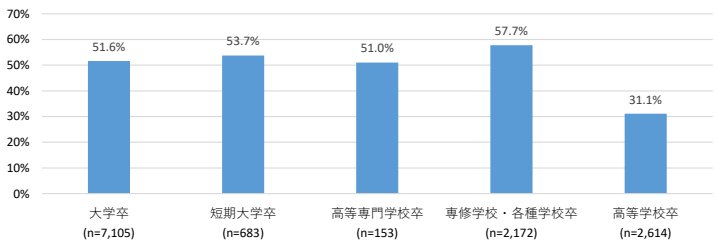
※「キャリア教育の充実度」は、第18回調査で尋ねた「地域の産業や職業についての調査」、「職場の見学」、「就業体験（インターンシップ）」などについて取り組んだか否かを尋ねている10個の項目に関する活動の取組状況について、「そのような活動はなかった」の個数を反転させたものである。0～10の値をとり、値が高いほうが取組が多くなされていることを意味する。
※「進路選択に対する満足度」は、1～4の幅の値をとり、値の高いほうが満足度が高い。
※上記の結果は一元配置分散分析による検定の結果が統計的に有意（$p<0.001$）。なお、上記は第18回調査時点で全日制の高等学校に在籍していた場合の集計結果であるが、全日制の高等学校以外に在籍していた者を含めた集計でもほぼ同様の結果が得られる。

②教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析

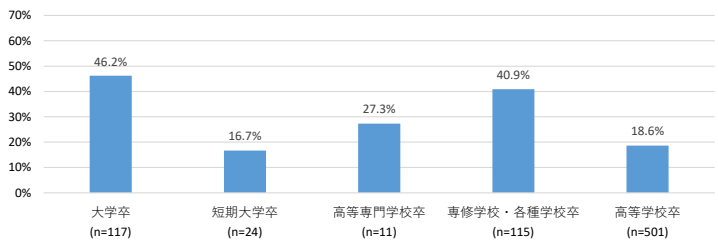
テーマC：
「学校から社会・職
業への移行」の状
況に関する分析

- ✓ 最後に卒業した学校がや「高等学校」の場合や、いずれかの教育段階で中退を経験した場合は、初職に関して相対的に満足度等の水準が低い傾向
- ✓ セーフティネット構築の観点からこれらの課題への対応は引き続き重要である（テーマEにも関連）

最後に卒業した学校の種類別、初職が「希望していた」仕事であった割合



最後に卒業した学校の種類別、初職が「希望していた」仕事であった割合
（中退を経験した者に関する集計）



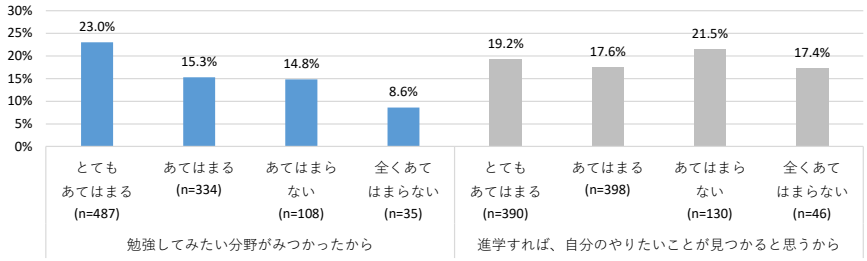
※「最後に卒業した学校の種類」は、第23回調査で就業している者に関して、最終学歴（最後に卒業した学校）として尋ねたもの。集計対象となる件数をふまえて「大学卒」、「短期大学卒」、「高等専門学校卒」、「専修学校・各種学校卒」、「高等学校卒」の分類別に集計を行い、これらの分類に該当しない回答はここでは集計の対象外とした。
※第23回調査で「「初職で就いた仕事は、就職活動が始まる前に希望していた仕事ですか」という設問で、「希望していた」、「やや希望していた」、「特に希望していなかった」の3つの選択肢で回答を得たうち、「希望していた」と回答された割合を集計した。
※上記右側は中退した学校があるかを尋ねた設問に関して、いずれかの段階で中退を経験したことがあると回答した者に限定して集計を行ったもの。集計対象件数が少ないカテゴリがある点には留意が必要である。
※上記左側の集計結果には、右側に示した中退を経験した者が含まれる。

②教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析

テーマD:
大学院進学者の特性に関する分析

- ✓ 大学院への進学に関して、高校生段階で希望していない場合には実際に進路選択する割合は低いことから、高校生段階での意識づけや情報提供等が重要である
- ✓ 博士課程への進学に関しては、高校生段階でのキャリア教育に関する取組との関連がみられたほか、大学等への進学後の学びの充実が重要であることを示唆する結果も得られた

第18回調査時点の大学等への進学理由別、第23回調査時点の大学院在籍者のうちの博士課程進学志望者の割合



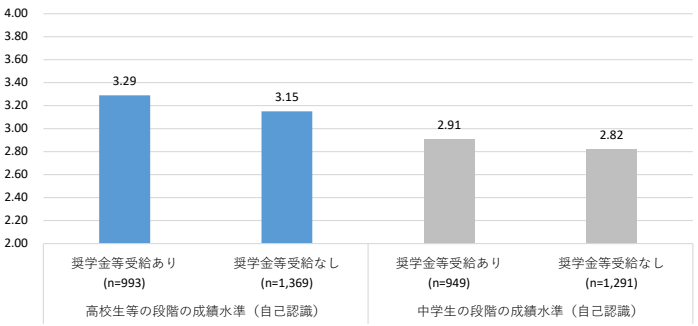
※第23回調査時点の大学院の在籍は、在学している学校の種類として「大学院」または「専門職大学院」を回答した場合が該当する。
※博士課程進学志望者については、「進学を考えている」、「検討中・未定」、「進学を考えていない」での回答選択肢のうち、「進学を考えている」、または「検討中・未定」を回答した場合が該当する。
※第18回調査で尋ねた大学等への進学理由別の集計では、クロス集計による検定の結果、「勉強してみたい分野がみつかったから」に関しては統計的に有意な結果(p=0.008)であるが、「進学すれば、やりたいことがみつかると思うから」に関しては有意ではなかった(p=0.770)。

②教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析

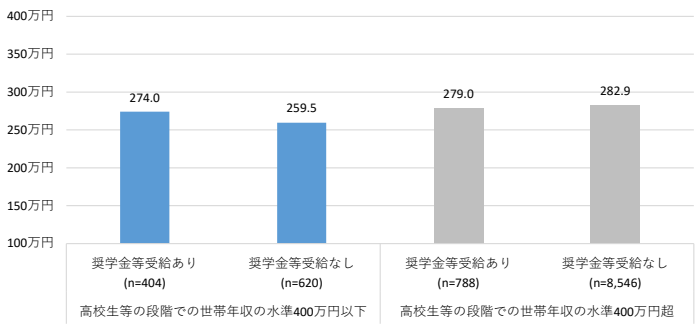
テーマE:
高校生段階の奨学金等受給状況や効果等に関する分析

- ✓ 世帯年収が相対的に低い群(世帯年収「400万以下」)のなかでの比較として、高校生等の段階での学業成績の水準や就労後の給与水準に関して、奨学金等を受給している場合のほうが肯定的な傾向を示す結果が得られた
- ✓ これらの効果の可能性について引き続き検討を行うほか、世帯年収が相対的に低いにもかかわらず奨学金等を受給していない世帯に目を向けていくことも重要と考えられる

奨学金等受給の有無別、成績の水準



第23回調査時点の就業者の年収の水準



※上記左側の成績に関する結果はいずれも、第16回～第18回の調査時点での保護者の年収が400万円未満であった者に関する集計。
※成績に関する回答は1～5の値をとり、値が高いほうが成績が「上の方」と回答されたことを意味する。
※平均値差の検定で、中学生段階での成績の水準については統計的に有意な差はなかった(p=0. 083)が、高校生等の段階では有意であった(p=0.007)。
※高校生等の段階で通っている学校の大学進学率の状況については群間に有意な差が見られないことは確認しているが、成績の水準について自己認識であることなどには留意が必要。
※上記右側の就業者の年収は第23回調査時点で就業者を対象に調査。世帯年収の水準が「400万円以下」の場合は統計的に有意であった(p=0.020)。

②教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析

- いずれのテーマに関しても基礎的な集計・分析結果を提示するものにとどまるが、それぞれ、近年の文部科学行政の動向等を踏まえ、今後の教育施策の検討に資すると考えられた内容について集計・分析を行った。
- いくつかの点について、教育施策の充実により、児童生徒にポジティブな影響を及ぼす可能性があることや、学びのセーフティネットの重要性を示唆する結果を得た。
- 今回の検討で得られた結果を踏まえ、今後多変量による分析などにより、精緻な分析を行うことで検討を深めていくことも想定される。
- また、平成22年出生児を対象にした調査データで同様の分析を行うことにより、近年の状況をより詳細に把握・検討していくということも想定される。